

令和２年度藤岡市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況一覧

資料 2

4 母親や乳幼児等の健康確保、切れ目のない支援へ向けて

No.	項目	事業内容	令和２年度			令和３年度	担当課
			目的・目標	実績・成果	課題	今後の取組方針	
4-1	各種乳幼児健康診査	股関節検診、4か月児、1歳児、1歳6か月児、3歳児、5歳児を対象に乳幼児健康診査を実施します。また、健診時に児童の成長・発達等に関する相談に応じます。	各月齢や年齢に応じた運動機能・視聴覚障害・精神発達の遅滞等、障害を持った乳幼児を早期に発見し、適切な指導及び助言を行うとともに、生活習慣の自立・う歯（むし歯）予防・栄養・その他育児に関する指導を行い、乳幼児の健康保持増進を図る。 またその保護者に対し、育児や発達面の相談や指導を行う。	◆健診受診数◆ 股関節健診 289人 4か月児健診 294人 1歳児健診 341人 1歳6か月児健診 342人 3歳児健診 375人 5歳児健診 400人	感染症対策に留意しながら、決められた時間やスペースで来所者及びスタッフの安全を確保し、行うことが必要。	感染症対策に留意し、安全に健診を運営し、早期に支援の必要な児とその保護者に対し、継続的に支援を行う。	子ども課 母子 保健係
4-2	乳児家庭全戸訪問事業【再掲3-(4)】	保健師・助産師・健康推進員が妊産婦や新生児のいる家庭を訪問し、母子の育児支援を実施します。初産婦や低体重児・未熟児の家庭を重点的に訪問し、育児不安の解消に努めます。	生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、早期から子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行い、今後の育児支援に繋げていく。	訪問対象者数 346人 訪問実施数 305件 実施率 88.1% (訪問目安：産後1か月)	健康推進員の訪問では、対象者との連絡がとれなかったり、都合が悪かったりして訪問できないケースがあった。特に支援が必要な母子については、頻回の訪問が必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、妊娠届出時の情報から、特に支援が必要な母子を把握し、早期の訪問につなげ、必要時関係機関とも連携を図りながら支援していく。 ・健康推進員の訪問についても妊娠届出時に対象者に案内を続けていく。 	
4-3	育児相談事業	育児全般に関する相談を毎月実施します。定期的に開催することにより、子どもの成長確認ができる場として育児に関する不安を解消していきます。	育児全般に関する相談を定期的に開催し、子どもの成長を確認し、育児に関する不安を解消していく。	延べ相談利用数 125件 (新型コロナウイルス対策として、予約制で対応。毎月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・育児不安が強い場合には、継続的に対応していく必要がある。 ・内容によってはその場で解決できないこともあり、別の時間帯での対応が求められることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も密を避け、可能な限り円滑な対応ができるよう、予約制にて実施していく。 ・継続的に子どもの成長を見たり、育児不安の解消をしていけるよう対応を続けていく。 	
4-4	栄養相談事業	離乳食教室や1歳児健診、マタニティクラス等で、栄養士による指導・相談を実施します。年代に応じた指導内容とし、離乳食の調理実習や歯科衛生士による虫歯予防など幅広く活動します。	マタニティクラス・前期離乳食教室・後期離乳食教室等で栄養指導や相談対応を行い、妊娠期から乳幼児期の望ましい食事について伝えていく。	◆教室開講数◆ マタニティクラス 5回 前期離乳食教室 11回 後期離乳食教室 11回 ◆教室受講者数◆ マタニティクラス 23組 前期離乳食教室 119組 後期離乳食教室 50組 (新型コロナウイルス感染予防として試食を中止)	後期離乳食教室については試食が中止されていることと、前期離乳食教室と内容が重なるところもあり、参加者数が少なくなっている。マタニティクラスも新型コロナウイルス感染防止対策で参加者数が減少した。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和３年度から前期離乳食教室と後期離乳食教室を「離乳食教室」としてまとめる行う。 ・マタニティクラスは廃止し、「ママサロン」に栄養指導を加えて実施する。 	

No.	項目	事業内容	令和2年度			令和3年度	担当課
			目的・目標	実績・成果	課題	今後の取組方針	
4-5	両親学級	両親へ妊娠・出産・育児をテーマとした教室を開催します。父親のマタニティ体験や妊娠中の保健、家族計画等幅広い分野をテーマとして開催し、虐待やDVのない明るい家庭が築ける基礎作りを目指します。	両親での沐浴体験や父親のマタニティ体験を通じて、母性・父性意識の向上、父親の育児への協力を促す。また、妊娠・出産に対する不安を解消できるよう妊娠中の支援を行う。	開催数 6回 参加者数 35組 (偶数月の土曜日に実施)	新型コロナウイルス感染防止で密とならないよう対策をとる必要があった。	今後も新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、実施できる場合には感染防止をしながら実施をしていく。	子ども課 母子係
4-6	性や性感染症予防に関する正しい知識の普及	各学校の要請に応じて出前講座を実施します。命の大切さ出前講座では小学校低学年・高学年・中学校用の指導案を作成し、学校と連携しながら実施します。	生命の誕生に寄せる家族の思いに気づき、命の大切さについて考えさせる。命の尊さを学び、自分の体や人の体を大切にしようとする気持ちを持たせる。	講座開催数 6回 延べ参加者数 353人 (新型コロナウイルス感染症の影響で、申込のあった9校のうち6校のみ実施)	申し込みが3学期に集中しているため、コロナ禍の影響等で日程の変更をする場合、延期が難しい。	各学校と連携し、打ち合わせを行い、効果的な出前講座を実施する。	
4-7	歯科予防に関する正しい知識の普及	歯科健診等の事業と健康な歯をつくる出前講座により、正しい知識を普及して、歯科予防の実行を向上させていきます。	未就学児、小学生、中学生が年齢に応じた口腔ケアの必要性を学び、むし歯や歯周病を予防することができます。	講座開催数 5回 延べ参加者数 473人 (新型コロナウイルス感染症の影響で、申込のあった9校のうち4校のみ実施)	乳幼児に関しては、市の集団健診で歯科アンケートを実施しているが、小中学生に関しては把握ができていない。	令和3年度の歯の出前講座の際、焼酎が売生に対して「歯の健康に関するアンケート」を試験的に実施し、一部の実態について把握し、今後の指導内容を検討する。	
4-8	妊婦健康診査【再掲3-(3)】	母子手帳交付時に保健師・助産師が個別の保健指導を行うとともに、妊婦健康診査受診票を交付します。妊婦の健康管理の充実や経済的負担の軽減を図り、安心して妊娠・出産ができる体制の確保をしています。	妊婦の健康管理の充実、経済的負担の軽減を図るため、健診に必要な経費を交付することにより、安心して妊娠～出産ができる体制を確保する。	妊婦健診受診票支給数 334件 妊婦健診受診票利用率 91.6% 妊婦個別歯科健診受診数 112人 妊婦個別歯科健診利用率 33.5%	妊娠届出週数が遅く、受診券交付が遅れてしまい、受診券を使った健診受診が遅れてしまったり、受診の機会を逃してしまう妊婦がいる。	早期の妊娠届出を推奨し、健診の必要性を伝えていく。妊婦歯科健診の受診率の向上を図るため、妊娠中の訪問児等に再度受診勧奨していく。	
4-9	産婦健康診査	産後の回復状況の確認や産後うつ早期発見のために行う産婦健康診査にかかる費用の一部を助成します。	産婦健康診査に係る費用の一部を助成し、産後の回復状況の確認や産後うつ早期発見をしていく。	受診券発行枚数枚 336枚 受診者数 271人 受診率 81% (受診目安：産後2～3週間)	産婦健診を受けてほしい産婦であっても、本人の都合などで受診しないことがある。	引き続き産婦健診の受診券の交付を受診勧奨を行い、マタニティブルーや産後うつ早期発見に繋げていく。	
4-10	新生児聴覚検査	医療機関において新生児聴覚検査を受診した際にかかる費用の一部を助成します。	医療機関において新生児聴覚検査を受診した際にかかる費用の一部を助成し、聴覚障害の早期発見へつなげる。	受診券発行数 342枚 受診券利用者数 324人 受診率 95.0%	未熟児や疾患を持って生まれた子は受診が遅れる場合がある。	今後も新生児聴覚検査の受診券を交付し、新生児聴覚検査の早期受診勧奨し、受診につなげていく。	

No.	項目	事業内容	令和２年度			令和３年度	担当課
			目的・目標	実績・成果	課題	今後の取組方針	
４－１１	がん検診（婦人科）	対象年齢の女性へ検診無料クーポンを配布し、各種がんに対する検診率の向上に努めます。	子宮頸がんは、早期治療を行えばほとんどが治癒することから、早期発見し、早期治療に繋げるために子宮がん検診を実施する。受診率の向上、精検受診率１００％に努める。	対象者数 27,971人 受診者数 3,736人 検診率 13.4% →子宮頸がん発見者なし 個別検診は市内3医療機関で実施、集団検診は日曜日に実施。	若年層の受診対策として、21歳の女性に無料クーポンを配布し、受診を勧奨しているが、受診率は低い状況である。	・検診率の向上を図るため、令和２年度同様日曜日にも検診実施する。 ・１２月に再推奨はがきを発送する。	健康づくり課
４－１２	予防接種の実施	予防接種法に基づき、疾病の流行防止に努めます。また、未接種を減少させるため、健診時等を活用し接種勧奨を行います。	多くの人を感染症から守るため、定期予防接種の接種機会を確保するとともに、一定の接種率の確保を目指す。	個別予防接種完了率 77.1%	予防接種の目的を理解しないで、親の育児方針で子どもに予防接種を受けさせない親がいる。	健診等で母子健康手帳の予防接種歴の確認を行い、未接種ワクチンの接種勧奨を行う。	子ども課 母子保健係
４－１３	子どもの医療費無料化	子育て世帯の負担を軽減するとともに、子どもたちが安心して必要な医療が受けられるよう、医療費の一部負担金を県と市で負担します。	福祉医療対象者が医療機関で早期受診できることで、症状の重症化を防止する。	受給資格者数 6,698人 支給件数 87,181件 扶助費 186,545千円	医療費が無料になることから、時間外受診や重複診療に繋がる場合もある。	早期受診による重症化の防止や子育て世帯の経済的な負担軽減のため、今後も中学卒業までを対象に医療費の助成を行う。	保険年金課
４－１４	健康推進員事業	市長より委嘱を受けた健康推進員に様々な保健活動への協力をしてもらい、市民の健康増進を図ります。	健康推進員の任期も２年目になるが、母子の訪問活動がスムーズに実施でき、また地区別活動にも積極的に取り組めるよう支援していく。	委嘱者数 147人 産前訪問数 165件	訪問は妊娠届出時に了承を得ての訪問になるが、一部の妊婦は健康推進員の訪問連絡の時点で不在や拒否が多く、健康推進員の活動目標が達成できないケースがある。	・初産婦には、妊娠届出時に健康推進員活動の周知を強化する ・訪問への実施内容についての見直しを図る。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を行い、訪問や健診協力を実施する。	子ども課 母子保健係
４－１５	健康教育の推進	健康教育に対し、教育方針への明示や校長会議・教頭会議・学校訪問・文書等で指導を行うとともに、児童の心身の健康増進を図ります。	学校医・学校歯科医等の関係者からの助言を得ながら、新型コロナウイルス感染症対策を施し、校内における健康教育を推進していく。	校長会議 6回 副校長・教頭会議 6回 感染症物品配布時に学校担当者から保険等に関する聞き取り→随時	感染症対策に教員の働き方改革も関わって、実施の中止や実施方法の変更などが行われた事業もあることから、事業本来の目的及び方法の見直しと、令和２年度の事業の評価を令和３年度以降の実施に反映していくこと。	感染症による影響を考慮しつつ、安全に健康教育の実施ができるように、各学校の教育環境を整えていくとともに、事業の目的や目標の見直しと設定を行い、適切に健康教育が実施できるようにする。	学校教育課
４－１６	子どもの事故予防のための啓発	相談や健診事業を利用して、誤飲・転落・やけど等の事故や乳幼児突然死症候群の予防指導を行い、啓発に努めます。	誤飲・転落・やけど等の事故や乳幼児突然死症候群の予防指導の実施により、啓発を行う。	チラシ発行数 683枚	事故予防のため、健診時などにチラシを配布したり、目に留まる箇所にポスターを掲示したりして啓発を続ける必要がある。	今後も事故予防の啓発活動を実施していく。	子ども課 母子保健係